



SEE MORE JESUS • WANTTOSEEMORE.COM

救われるためには何をすべきか?—ストロング番号付き KJV聖書スタディ

救われるためには何をすべきか?・使徒たち自身の答え(使徒行伝2:38)

聖書の基礎教理—イエス・キリストの福音

平易な言葉で

神はあなたを造られ、神はあなたを愛しておられます。すべての人は悪を行い、その悪は私たちが神から切り離します。神はその御子イエス・キリストを遣わされました。イエスは決して悪を行われませんでした。私たちの悪の代価を払うために死なれました。それから神は彼を死人の中から甦らせられ、彼は今生きておられます。あなたがしなければならないことはこうです。この良き知らせを心の底から信じなさい。あなたの悪しき道から立ち返りなさい——聖書はこれを悔い改めと呼びます。バプテスマを受けなさい——イエス・キリストの名によって水の中に下りなさい——そうすれば神はあなたの罪を赦してください。神はあなたのうちに住むために聖霊を与えてくださいます。そして生涯の終わりまで、信じる他の人々とともに、毎日イエスに従い続けなさい。彼はあなたを守り、決して終わることのない命を与えてくださいます。

開会の言葉

友よ、誰もが問うべき最も重要な問いが、教会が誕生したその日に問われました。真理を聞いた人々は心を刺され、叫んで言いました、私たちはどうしたらよいのでしょうか、と。彼らはただ何かを感じるように、あるいは祈りを唱えてそのまま以前と同じ生き方を続けるようにとは言われませんでした。彼らには入口のある答えが与えられ、その入口には越えるべき一歩がありました。信じなさい——心を尽くして——イエス・キリストがあなたの罪のために死に、死者の中からよみがえられたことを。なぜなら、信仰は神の言葉を聞くことから生まれるからです。悔い改めなさい——心を尽くして罪から離れなさい。イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい、罪の赦しのために——主とともに葬られ、新しいいのちに生きるためによみがえるのです。聖霊の賜物を受けなさい——なぜなら、キリストの御霊を持たない者は、キリストのものではないからです。そして入口で立ち止まらず、使徒たちの教えと、パンを裂くことと、祈りとにひたすら励み続けなさい。枝がぶどうの木につながっているように、キリストにつながり続けなさい。そして最後まで耐え忍びなさい——なぜなら、救いは真理の中で始まり、真理の中で続き、真理の中で終わるからです。祈りは良い始まりであり、あなたは今この時に祈ることができます。し

かし使徒たちが答えたすべてのことに耳を傾け、それを行いなさい、そうすれば救われます。これが入る道です。自分自身でそれを学び、それを歩みなさい。

本研究が答える三つの問い:

1. 人々が心を刺され、「私たちは何をすべきか」と叫んだとき、使徒たちはどう答えたか。
2. 心で信じ、口で告白するとはどういう意味ですか。また、イエス・キリストの名によるバプテスマは何をもたらしますか。
3. 救いは単なる始まりに過ぎないのか、それとも人はさらに継続し、キリストに結び合わされ続け、最後まで耐え忍ばなければならないのか。

I. 質問 — 兄弟たちよ、我々は何をすべきか

使徒行伝 2:36 だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである。(37) 人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った。

彼らは心を刺され⇒兄弟たちよ、私たちはどうしたらよいのか

II. 根拠 — キリストは死なれ、その血は罪より洗い清める

A. ローマ人への手紙 5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

私たちがまだ罪人であったとき、キリストは私たちのために死んでくださった。

B. ヨハネの黙示録 1:5 また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、

原語キー / **STRONG'** S: ■ G3068 louo

忠実な証人、また死者の中から最初に生まれた方→わたしたちを愛してくださった方→ご自身の血によってわたしたちを罪から洗い清めてくださった方。

C. エペソ人への手紙 1:7 わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。

私たちは彼の血によって贖い、すなわち罪の赦しを得ている。

(私個人の思い——贖いと罪の赦しは彼にある。それゆえ、私たちは彼の中へバプテスマされるのである。私たちを洗う血と、その血が買い取る赦しは、私たちがその中へバプテスマされる、まさにその方の中に見出されるのである。)

D. イザヤ書 52:14 多くの人が彼に驚いたように——彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、その姿は人の子と異なっていたからである——

彼の顔だちは、どの人よりも損なわれ、その姿は人の子らよりも損なわれていた。

E. イザヤ書 50:6 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった。

私はわが背を打つ者にまかせ、わがほおをひげを抜く者にまかせ、恥と唾とを避けて顔をかくさなかった。

F. 詩篇 22:14 わたしは水のように注ぎ出され、わたしの骨はことごとくはずれ、わたしの心臓は、ろうのように、胸のうちに溶けた。(15) わたしの力は陶器の破片のようにかわき、わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。(16) まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。(17) わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。(18) 彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする。

私の骨はことごとくはずれ⇒彼らはわが手とわが足を刺し通し⇒彼らはわが衣を分け、わが衣服のためにくじを引く。

G. イザヤ書 53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。(5) しかし彼はわれわれのとがのために傷つ

けられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲しめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H7495 rapha

彼はわれわれのとのために傷つけられ、われわれの不義のために打たれた。彼の受けた傷によって、われわれはいやされたのである。

H. マタイによる福音書 27:28 そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、(29) また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。(30) また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその頭をたたいた。

茨の冠を彼の頭に → 彼らは彼につばきをかけ、頭を打った。

I. ルカによる福音書 22:44 イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。

そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。

J. ヨハネによる福音書 19:34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。

槍が彼のわき腹を刺した ⇒ すると、ただちに血と水が出て来た。

(私の個人的な思い——ゆっくり読んでほしい。そしてこれはあなたのために書かれたのだと知ってほしい。星々を造られたその御顔は、見分けもつかぬほど傷つけられた。すべてのものを支える背は、鞭によって切り開かれた。らい病人を癒されたその手は、鉄によって打ち貫かれた。その骨は数えられるほどに浮き出た。汗は、一本の釘が打たれるより前に、血のように滴り落ちた。彼は力によって押さえつけられたのではない——ご自身の背を進んで差し出され、御顔を隠されなかった。すべての傷はあなたの罪が彼に負わされたものであり、すべての傷跡はあなたの不義であり、すべての一滴はあなたの負債であった。そしてすべてが成し遂げられたとき、血と水が彼の脇腹から流れ出た——血はあなたを洗うために、水はあなたを彼のうちに葬るために。それゆえ、あなたが悔い改めてバプテスマを受けるように言われるとき、あなたは何か難しいことを求められているのではない。あなたはひざまずいて、それだけの代価を払われたものを受け取るように求められているのである。)

III. 主イエス・キリストを信じ — 口をもって彼を告白せよ

A. 創世記 15:6 アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

原語キー / **STRONG'** S: ■ H539 aman

アブラムは主を信じた → 主はこれを彼の義と認められた。

B. ローマ人への手紙 4:3 なぜなら、聖書はなんと言っているか、「アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた」とある。

アブラハムは神を信じた → それは彼の義と認められた。

C. 民数記 21:8 そこで主はモーセに言われた、「火のへびを造って、それをさおの上に掛けなさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見るならば生きるであろう」。(9) モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。

かまれた者はみな、それを仰ぎ見るならば → 生きる。

D. ヨハネによる福音書 3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。(15) それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。(16) 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

原語キー / **STRONG'** S: ■ G4100 pisteuo

モーセが荒野にて蛇を挙げしごとく → 人の子もまた挙げられるべし → 彼を信ずる者は誰も滅びずして、永遠の生命を得べし。

(私自身の思い——この二つを並べて、教えられることを見てみよう。荒野で、死にかけていた人々は、治療を得るために何かをせよとは言われなかった。彼らはただ、神が竿の上に掲げられたものを信仰をもって見よと言われ——そして生きた。イエスは、その竿はご自身の十字架の型であったと言われる。信じるとは、見ることである。人が何かを悔い改める前に、何かに従う前に、まず全身全霊をもって、掲げられた方を見つめ、信頼しなければならない。そしてアブラハムを見よ。彼は信じ、神はそれを彼の義と認められた——律法の前に、いかなる儀式の前に。信仰こそ、すべての始まりである。しかし、次の節で信仰がいかに速やかに従順へと移っていくかに注目せよ——同じ夜、同じ時に。)

E. ローマ人への手紙 10:8 では、なんと言っているか。「言葉はあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある」。この言葉とは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉である。(9) すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。(10) なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G3670 homologeo

口にてイエスを主と言ひあらわし + 心にて神の彼を死人の中より甦らせ給ひしことを信ぜば → 汝は救われん。

F. ローマ人への手紙 10:13 なぜなら、「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」とあるからである。

主の御名を呼び求める者は皆 → 救われる。

G. ローマ人への手紙 10:17 したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。

したがって、信仰は聞くことによるのであり → 聞くことはキリストの言葉から来るのである。

H. 使徒行伝 16:29 すると、獄吏は、あかりを手に入れた上、獄に駆け込んできて、おののきながらパウロとシラスの前にひれ伏した。(30) それから、ふたりを外に連れ出して言った、「先生がた、わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」。(31) ふたりが言った、「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」。(32) それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせた。(33) 彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らずバプテスマを受け、

原語キー / **STRONG' S:** ■ G4100 pisteuo

皆さん、私は救われるために何をすべきでしょうか → 主イエス・キリストを信じなさい → そして彼とその家族すべては、ただちにバプテスマを受けた。

(私自身の考え——聖書全体を通して、この全く同じ問いが声に出して問われているのはただ二度だけである。ここピリピの牢獄と、使徒行伝二章の五旬節においてである。この二つの答えを並べて見るがよい。五旬節の群衆はすでに聞いており、すでに信じていた——それゆえに彼らは心を刺されたのであり——それでペテロは次の段階、すなわち悔い改めよ、バプテスマを受けよ、というところから始めた。獄吏はまだ何も知らなかったゆえ、パウロは最初の段階、すなわち信ぜよ、というところから始め——それから主の言葉を彼に語った。そしてその夜のその時刻に、その人はバプテスマを受けた。二つの始まり、一つの道である。信じることはバプテスマの敵対者ではなく、バプテスマも信じることの敵対者ではない。信仰とは従う心のことであり、その時刻こそ十分に早いのである。)

I. ヘブル人への手紙 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

信仰がなければ、神に喜ばれることはできない → 神に来る者は、神が実在すること、を信じなければならない。

IV. 答え — 悔い改めて、バプテスマを受け、聖霊を受けよ

使徒行伝 2:38 すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。(39) この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G3340 metanoeo ・ ■ G907 baptizo ・ ■ G859 aphesis

悔い改めてイエス・キリストの名によりバプテスマを受け、罪の赦しを得よ → そうすれば聖霊の賜物を受けん。

V. 悔い改めよ

A. 使徒行伝 3:19 だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。

悔い改めよ、そして立ち返れ → あなたがたの罪が消されるために。

B. ルカによる福音書 13:3 あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。

汝ら悔い改めずば、みな同じく滅ぶべし。

C. コリント人への第二の手紙 7:10 神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。

神のみこころに添うた悲しみは→この世の悲しみは死をきたらせる。

(私の個人的な思い——これを一度言われて終わる小さな言葉だと思ってはならない。悔い改めよ、またそれに類する言葉は、聖書全体を通して百十二回響いている——旧約聖書に四十六回、新約聖書に六十六回。「立ち返れ、立ち返れ」と叫ぶ預言者たちから、「悔い改めよ」と叫ぶヨハネへ、主ご自身へ、使徒たちへ、諸教会に書き送られた復活のキリストへと——創世記から黙示録まで、一つの呼びかけが響いている。立ち返れ。神はこれの人々に呼びかけることを一度も止められたことがない。そして、誰もこれを行うことを止めてはならない。)

VI. 罪の赦しのためにキリストにバプテスマを受けなさい

A. 使徒行伝 22:16 そこで今、なんのためらうことがあろうか。すぐ立って、み名をとнаえてバプテスマを受け、あなたの罪を洗い落しなさい。』

原語キー / **STRONG' S:** ■ G907 baptizo

起きて、バプテスマを受け、汝の罪を洗い去れ——主の御名を呼びて。

B. ローマ人への手紙 6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

バプテスマによってキリストと共に死に葬られた -- それは、キリストが死人の中からよみがえらされたように、私たちもいのちにおいて新しく歩むためである。

C. コロサイ人への手紙 2:12 あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。

バプテスマにおいてキリストと共に葬られ→神の力の働きに対する信仰によってキリストと共に復活した。

D. ペテロの第一の手紙 3:21 この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救うのである。それは、イエス・キリストの復活によるものであって、からだの汚れを除くことではなく、明らかな良心を神に願い求めることである。

バプテスマは今やあなたがたをも救うのである=明らかな良心を神に願い求めることである。

(私自身の思い——救うのは水ではない。それは、良心が神に対して答えることである。すなわち、バプテスマの服従を通して良心に適用される血であり、新しいいのちへとよみがえらされる人のことである。)

列王紀下 5:10 するとエリシャは彼に使者をつかわして言った、「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう」。

原語キー / **STRONG' S:** ■ H2891 taher

行ってヨルダンで七たび身を洗え→そうすればあなたの肉は元にかえって、あなたは清くなるであろう。

列王紀下 5:13 その時、しもべたちは彼に近よって言った、「わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったのでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか」。

もし預言者があなたに何か大いなる事をせよと命じたならば、あなたはそれをしなかったであろうか。→ましてその彼が「洗って清くなれ」と言う時には、なおさらではないか。

列王紀下 5:14 そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり、清くなった。

そこでナアマンは下って行って→その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり、清くなった。

(私個人の思い——ここには、はるか昔に描かれた同じ真理がある。ナアマンは偉大な人物であったが、らい病人であった。そして彼はある小さなことをするように言われた。ヨルダン川へ行って七度身を洗え、そうすれば清くなる、と。彼は怒り、何か壮大な行為を期待し、自分の国の川の方がイスラエルの水よりも優れていると思った——今でも人々がこのような単純な命令につまずくのと同じように。しかし彼を癒したのは、決してヨルダン川の水そのものではなかった。神が定められたその水の中で、神の言葉に従うことであった。彼は下って行き、七度身を浸すと、その肌は幼な子の肌のようによみがえった。人が新しく生まれるとは、そういうことである——自分自身の何か大いなる努力によってではなく、従順によって下り、そして新しい子として、清められて上ってくることによってである。)

E. マルコによる福音書 16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G907 baptizo

信じてバプテスマを受ける者は救われる。

F. ヨハネによる福音書 3:5 イエスは 答 えられた、「よくよくあなたに 言 っておく。だれでも、水 と 霊 とから 生 れなければ、神 の 国 にはいることはできない。

原語キー / **STRONG** S: ■ G1080 gennao

人は水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

G. ガラテヤ人への手紙 3:27 キリストに 合 うバプテスマを 受 けたあなたがたは、皆 キリストを 着 たのである。

原語キー / **STRONG** S: ■ G907 baptizo

キリストに 合 うバプテスマを 受 けたあなたがたは → 皆 キリストを 着 たのである。

H. テトスへの手紙 3:4 ところが、わたしたちの 救主 なる 神 の 慈悲 と 博愛 とが 現 れたとき、(5) わたしたちの 行 った 義 の わざによってではなく、ただ 神 の あわれみによって、再生 の 洗 いを 受 け、聖霊 により 新 たにされて、わたしたちは 救 われたのである。

我らの救主なる神の仁慈と愛とが顕れたり → 義の行為によるにあらず → その憐憫によりて我らを救い、更生の洗いを以てなり。

I. エペソ人への手紙 2:8 あなたがたの 救 われたのは、実 に、恵 みにより、信仰 によるのである。それは、あなたがた 自身 から 出 たものではなく、神 の 賜物 である。(9) 決 して 行 いによるのではない。それは、だれも 誇 ることがないためなのである。(10) わたしたちは 神 の 作品 であって、良 い 行 いをするように、キリスト・イエスにあって 造 られたのである。神 は、わたしたちが、良 い 行 いをして 日 を 過 ぐすようにと、あらかじめ 備 えて 下 さったのである。

原語キー / **STRONG** S: ■ G5485 charis

恵恩により、信仰を通して汝らは救われたり、これ神の賜物なり → 行為によるにあらず、誰も誇ることもからんためなり → 我らは彼の造りたる者にして、キリスト・イエスにありて善き行為のために造られたるなり。

(私自身の考え — この二つの真理を共に保つなら、そこに矛盾はない。恵みは賜物であり、信仰はそれを受け取る。そしてバプテスマは、ナアマンが川に身を浸すことによって癒やしを勝ち取ったのではなく、また死にゆく者たちが青銅の蛇を仰ぎ見ることによって命を勝ち取ったのでもないように、何かを勝ち取る行いではない。神がすべてを備えられ、人はただ従い、受け取るのみである。水から上がって来る者には誇るべきものは何もない——彼は葬られ、神が彼をよみがえらせたのである。上でペテロの前の書、三章二十一節について述べられたことは、ここでも真実である。すなわち、それは水ではなく、また私たち自身の手の行いでもない。それは恵みであり、信仰の従順を通して受け取られるものである。そしてまさに次の節は、行いが何のためにあるかを語っている——救いの根拠としてではなく、その実として。私たちは神の作品であり、キリスト・イエスにあって新しく造られ、神があらかじめ備えてくださった善い行いの中を歩むためである。命令に従う者は誰も賜物を勝ち取ったのではなく、それを勝ち取ることだと呼ぶ者は誰も、その命令を理解していないのである。)

J. テモテへの第一の手紙 1:13 わたしは 以前 には、神 をそしめる 者、迫害 する 者、不遜 な 者 であつた。しかしわたしは、これらの 事 を、信仰 がなかったとき、無知 なためにしたのだから、あわれみをこうむったのである。

冒流者+迫害者+暴力を加える者 → しかし私はあわれみを受けた。

(私個人の思い — この従順によって誰の罪が洗い流されたのかに注目しなさい。タルソのサウロはキリストの道を死に至るまで迫害した。男女を捕らえ、牢獄に引き入れた、神を冒流する者、神の民を迫害する者であった。主ご自身が道で彼に会い、彼を地に打ち倒し、天から彼に語られた。それでも、三日後、アナニヤが遣わされてこう言った。すなわち、立ち上がりバプテスマを受け、主の名を呼び求めて、あなたの罪を洗い流しなさい、と。ダマスコへの道での光がサウロの罪を洗い流したのでなく、従順の水がそれを洗い流したのであれば、誰も、最悪の罪人に神が与えられたよりも簡単な方法で自分の罪が取り除かれるなどと思ってはならない。)

VII. 聖霊の賜物を受ける

A. 使徒行伝 19:5 人々はこれを 聞 いて、主 イエスの 名 によるバプテスマを 受 けた。(6) そして、パウロが 彼らの上に 手 をおくと、聖霊 が 彼らにくんだり、それから 彼らは 異言 を 語 ったり、預言 を したりし 出 した。

主イエスの名によってバプテスマを受けた → 聖霊が彼らの上に下った。

B. ローマ人への手紙 8:9 しかし、神 の 御霊 があなたがたの 内 に 宿 っているなら、あなたがたは 肉 におるのではなく、霊 におるのである。もし、キリストの 霊 を 持 たない 人 がいるなら、その 人 はキリストのものではない。

キリストの霊を持たない者があれば、その人はキリストのものではない。

C. 使徒行伝 2:39 この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」。

約束はあなたがたとに与えられ、あなたがたの子らに与えられ、遠くに在るすべての者に与えられている。

D. エペソ人への手紙 1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。(14) この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

あなたがたはその約束の聖霊によって証印を押された。——それはわたしたちの受くべき嗣業の保証である。

E. コリント人への第二の手紙 1:22 神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜ったのである。

神はまた、わたしたちに証印をおし+その保証として、わたしたちの心に御霊を賜ったのである。

F. エペソ人への手紙 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけぬ。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

神の聖霊を悲しませてはいけぬ。あなたがたは→あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

(私自身の思い——聖霊は選ばれた少数の者への褒賞ではない。聖霊は、御自身に属する者たちに対する王の印であり、また、贖いの日まであなたが御自身のものであることの手付金——前もって支払われる相続の最初の部分——である。それゆえ、問いは明白に立てられ、そして問われなければならない。あなたは聖霊を受けているか。御言葉はこう明確に告げているからである。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していない。印のない手紙は王の手紙ではない。御霊のない人は、まだキリストのものではない。御霊を得るまで、御霊を求め続けなさい。)

VIII. 堅く立ち続けなさい——使徒たちの教え、交わり、パンを裂くこと、祈り

A. 使徒行伝 2:41 そこで、彼の勧めの言葉を受け入れた者たちは、バプテスマを受けたが、その日、仲間に加わったものが三千人ほどあった。(42) そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。

原語キー / **STRONG' S:** ■ G4342 proskartereo

彼の言葉を喜んで受け入れた者たちはバプテスマを受けた→彼らは使徒たちの教えと交わり、パンを裂くこと、そして祈りとに、ひたすら心を留めていた。

B. 使徒行伝 2:46 そして日々心を一つにして、絶えず宮もうでをなし、家ではパンをさき、よろこびと、まごころとをもって、食事を共にし、(47) 神をさんびし、すべての人に好意を持たれていた。そして主は、救われる者を日々仲間に加えて下さったのである。

そして日々心を一つにして→救われる者を日々仲間に加えて下さったのである。

C. コリント人への第一の手紙 11:23 わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンをとり、(24) 感謝してこれをさき、そして言われた、「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。(25) 食事のうち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。(26) だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。

私は主から受けた+これはあなたがたのために裂かれた、わたしの体である→わたしを記念するために、これを行え→主が来られるまで、あなたがたは主の死を告げ知らせるのである。

D. ヨハネによる福音書 6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり→わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。

E. ヨハネの第一の手紙 1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば→神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

F. ヘブル人への手紙 3:13 あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。

あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って→「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。

(私個人の思い—「毎日」という言葉がいかに繰り返されているかに注目してほしい。彼らは毎日続けた。家々でパンを裂いた。毎日互に励まし合った。これは日曜日の一時間、週半ばの一時間だけの宗教ではない—二度だけ座席を温め、残りの人生は自分のものとするような信仰ではない。初代教会は毎日、共にそれを生きた。そして主は救われる者を日々仲間に加えられた。次の集会まで脇に置かれる信仰は、罪の欺きによって硬くなる信仰である。主が求めておられるのは、訪問ではない。主が求めておられるのは、人生そのものである。)

IX. キリストにとどまる—信仰にとどまり続ける

A. ヨハネによる福音書 15:4 わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていない。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができない。(5) わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

原語キー / STRONG' S: ■ G3306 meno

汝らが内にとどまらずば——汝らわれを離れては何事をも成し得ず。

B. コロサイ人への手紙 1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移行行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。もし汝ら信仰に根ざし堅く立ちて之に止まるならば→福音の望より動かされざれ。

C. ヨハネの第二の手紙 1:9 すべてキリストの教をとおり過ごして、それにとどまらない者は、神を持っていないのである。その教にとどまっている者は、父を持ち、また御子をも持つ。

原語キー / STRONG' S: ■ G3306 meno

キリストの教えのうちにとどまる者→その人は父と子との両方を持つ。

D. ローマ人への手紙 11:22 神の慈愛と峻厳とを見よ。神の峻厳は倒れた者たちに向けられ、神の慈愛は、もしあなたがその慈愛にとどまっているなら、あなたに向けられる。そうでないと、あなたも切り取られるであろう。

神の慈愛と厳しさを見よ→もしあなたが神の慈愛の内にとどまるなら→さもなければあなたも切り取られるであろう。

E. ヨハネの黙示録 3:15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。(16) このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。

冷たくもなく熱くもない→あなたはなまぬるいゆえに→私はあなたを口から吐き出そう。

(私の個人的な思い—主がなまぬるい者に対して何をなさるかに注目せよ。冷たい者だけでなく、なまぬるい者—快適でいられる程度の宗教は持ちながら、生きていとは言えない程度の者—その者を、主はご自身の口から吐き出されるのである。主につながっているとは、糸一本でぶら下がり、日曜日は温かく、週の残りは冷たいということではない。それは燃えることである。むしろ熱いか、あるいはむしろ冷たい方がよい、と主は言われる—主を吐き気にさせるあの中途半端なものよりは。主のうちにとどまり、主に最後まで燃え続けさせていただきたい。)

X. 最後まで耐え忍べ

A. マタイによる福音書 24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

原語キー / STRONG' S: ■ G5278 hupomeno

最後まで耐え忍ぶ者は救われるべし。

B. ヨハネの黙示録 2:10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちのある者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。

あなたが受けようとしている苦しみを何も恐れるな→死に至るまで忠実であれ→わたしはあなたに命の冠を与えよう。

C. コリント人への第一の手紙 11:28 だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。

だれでもまず自分を吟味し→それからパンを食べ杯を飲むべきである。

D. 箴言 24:16 正しい者は七たび倒れても、また起きあがる、しかし、悪しき者は災によって滅びる。

正しい者は七たび倒れても、また起きあがる、しかし、

E. ヨハネの第一の手紙 2:1 わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

もし人が罪を犯すなら、私たちには父の前に助け主、義なるイエス・キリストがある。

F. ヘブル人への手紙 7:25 そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。

そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので→いつも救うことができるのである。

G. 詩篇 103:12 東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる。

東が西から遠いように→主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる。

H. ヘブル人への手紙 8:12 わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」。

彼らの罪を思い出すことはしない」。

I. ヨハネによる福音書 10:27 わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。(28) わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。(29) わたしの父がわたしに下さったものは、すべてにまさるものである。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。

わたしの羊はわたしの声を聞き、わたしについて来る→だれもわたしの手からその羊を奪い去ることはない。

J. エゼキエル書 18:24 しかし義人がもしその義を離れて悪を行い、悪人のなすもろもろの憎むべき事を行うならば、生きるであろうか。彼が行ったもろもろの正しい事は覚えられない。彼はその犯したとがと、その犯した罪とのために死ぬ。

しかし義人がもしその義を離れて悪を行い→その犯した罪とのために死ぬ。

K. 箴言 26:11 犬が帰って来てその吐いた物を食べるように、愚かな者はその愚かさをくり返す。

犬が帰って来てその吐いた物を食べるように→愚かな者はその愚かさをくり返す。

L. ペテロの第二の手紙 2:20 彼らが、主また救主なるイエス・キリストを知ることにより、この世の汚れからのがれた後、またそれに巻き込まれて征服されるならば、彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。(21) 義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道を知らなかった方がよい。(22) ことわざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は洗われても、また、どろの中にころがって行く」とあるが、彼らの身に起ったことは、そのとおりである。

再びこれに絡まれて打ち負かされるなら→その後の状態は初めよりも悪くなる→犬は自分の吐いた物に戻り+洗われた雌豚は再び泥の中を転がり回る。

M. マタイによる福音書 7:22 その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。(23) そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。

主よ、主よ、我らはあなたの名によって預言したではありませんか。→我はかつて汝らを知らず、不法を働く者どもよ、我を離れ去れ。

(私個人の思い——キリストにある幼子は、父が「だめだ」と言った後でさえ、その炎に手を伸ばすことがある。それはまだ学びの途上にある子どもがつまずくということであり、父はそれをご存じである。成長した息子や娘であれば、もっとよくわきまえているべきだろう。しかし、ここに憐れみがある——たとえ罪を犯しても、私たちは見捨てられることはない。私たちには弁護者がおられる——義なるイエス・キリストであり、いつも生きていて、いつも父に向かって私たちのために語っておられる。だから私たちは再び立ち上がる。正しい人は七度倒れても、また起き上がる。私たちは自分自身を吟味し、行ったことを告白し、それから離れ、過去を後に残して、再び父の御用に戻る——なぜなら、神はすでに私たちの罪を、東が西から遠く離れているほどに遠ざけ、もはやそれを思い出されないからである。しかし、この憐れみを言い訳に変えてはならない。エゼキエルはもう一つの側面を示している——義人が自分の義から離れ、自分の罪のうちに死ぬなら、かつて持っていた義によって救われることはない。ペテロも新約聖書において同じ光景を示し、そのために古いことわざを引用している——犬が自分の吐いた物に戻り、洗われた豚が泥の中に戻るように——主を知ることによって世の汚れを逃れた者が、再びそこに戻るなら、その終わりの状態は初めよりも悪くなる。そしてイエスは、御名によって悪を行った者たちに「わたしはあなたがたを全く知らない」と言われる。さて、この剣の両刃を共にしっかりと握り、どちらも鈍らせてはならない。主は、だれもご自分の羊をその手から

奪い取ることはできないと言われる——どんな敵も、どんな力も、どんな人間も。その安全は本物であり、それを保つのは私たちの握力ではなく、主の握力である。しかし、その羊たちがどのように描かれているかを見るがよい——彼らは主の声を聞き、主に従う。御言葉は決して、羊が主の手からもぎ取られる姿を示さない。それが示すのは、洗われた者が自らの意志で向きを変え、泥へと歩いて戻る姿である。聖書はこの両方を保持している——決して壊されることのない御手と、離れ去ってはならないという警告——そしてそれらを一つの安易な公式に溶け合わせることはしない。だから私たちもそうしない。倒れたときに絶望してはならない——弁護者は本物であり、家路は開かれている。自由に離れ去ってもよいと思ひ込んではいない——警告もまた本物である。倒れよ、しかし起き上がれ。起き上がり、最後まで耐え忍べ。)

XI. 心せよ — 使者たちに耳を傾け、別の福音に気をつけよ

A. ヨハネの第一の手紙 4:6 しかし、わたしたちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによって、わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との区別を知るのである。

神を知る者は我らに聞く→これによりて我ら真理の霊と誤謬の霊とを知る。

B. ガラテヤ人への手紙 1:8 しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろむべきである。(9) わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろむべきである。

たとい我らあるいは天よりの御使であっても、他の福音を宣べ伝えるならば→彼は呪われるべし。

(私自身の考え——よく心に留めておきたい。もし私たちの信じることが使者たちの説いたことと一致しないなら、間違っているのは彼らではなく、私たちである。彼らは主を見、主の声を聞き、主によって遣わされた者たちである。神に聞き従う者は、彼らに聞き従う。教師を信徒たちより上に置くことは、誤りの霊に聞き従うことである。)

C. ユダの手紙 1:3 愛する者たちよ。わたしたちが共にあずかっている救について、あなたがたに書きおくりたいと心から願っていたので、聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。(4) そのわけは、不信仰な人々がしのび込んできて、わたしたちの神の恵みを放縱な生活に変え、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからである。彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されているのである。

信仰のために戦え、一度伝えられたその信仰のために→ある人々がひそかに忍び込んで来た。

D. ペテロの第二の手紙 2:1 しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いている。

にせ教師は滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定する。

E. コリント人への第二の手紙 11:13 こういう人々にはにせ使徒、人をだます働き人であって、キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである。(14) しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。

偽使徒、欺く働き人たち→サタン自身が光の御使いに変装している。

(私自身の思い——使徒たちの時代においてさえ、人々は入り込んで教えをねじ曲げた。まして私たちの時代においては、教えられている多くのことが新しく、古い言葉に根を持たず、正しく取り扱われていないのだから、なおのことである。あることが真実であるのは、多くの人々がそれを信じているからではなく、また人々の口において古くから語られてきたからでもない。それが真実であるのは、ただ使者たちが伝えたことと一致する場合のみである。)

テモテへの第二の手紙 4:3 人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、(4) そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。

彼らは健全な教えに耐えず、その欲望に従って、耳をかゆがらせるために自分に教師を寄せ集める。

テモテへの第一の手紙 4:1 しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに氣をとられて、信仰から離れ去るであろう。

後の時には、ある人々が惑わす霊と悪魔の教えとに心を寄せて、信仰から離れるであろう。

(私の個人的な思いです——そしてまさにこの時こそ、健全な教えに耐えられず、自分のために群がるように教師たちを集める人々の時なのです——耳の痒みを満たしてくれる限り、自分が聞きたいことを語ってくれる者を求めて。人は教師だけの家を丸ごと築き上げることができます。誰もが自分に賛同し、誰もが誤っている家を。真理は多数決によって証明されたことは一度も

なく、それを信じる者の数によって真実となったこともなく、耳を喜ばせるために曲げられたこともありません。真理から離れれば、あなたは向きを変えられるのです——御言葉がそう告げています——作り話へと。)

F. テモテへの第二の手紙 2:15 あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。

あなたは真理の言葉を正しく教え→神に自分をささげるように努めはげみなさい。

G. マタイによる福音書 4:4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある』。

人はパンのみにて生きるものに非ず、神の口より出づる凡ての言に由りて生きるなり。

H. 箴言 30:5 神の言葉はみな真実である、神は彼に寄り頼む者の盾である。(6) その言葉に付け加えてはならない、彼があなたを責め、あなたを偽り者とされないためだ。

神の言葉はみな真実である→その言葉に付け加えてはならない。

(私個人の考え——私たちは神の言葉の中から都合よく選んで良いのではなく、易しいものだけを守り、難しいものを捨てるということは許されない。人はすべての言葉によって生きるのである。それに付け加えたり、そこから取り去ったりすることは、それを語られた神の前で偽り者となることである。)

XII. 十字架上の強盗の実例

(私自身の思い巡らし——多くの人が自分の全論拠を置く一つの石がここにある。彼らは言う、死にゆく強盗は救われた、そして彼は決してバプテスマを受けなかった。ゆえにバプテスマは必要ではない、と。さあ今、御言葉の光に照らしてこれを量り、それが実際は何の上に立っているのかを見てみよう。)

A. ルカによる福音書 23:40 もうひとり、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。(41) お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。(42) そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。(43) イエスは言われた、「よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。

私たちは自分の行いの当然の報いを受ける→主よ、私を思い出してください→今日、あなたは私と共に樂園にいるであろう。

B. マタイによる福音書 3:5 すると、エルサレムとユダヤ全土とヨルダン附近一帯の人々が、ぞくぞくとヨハネのところにきて、(6) 自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。

エルサレム+ユダヤ全土+ヨルダンの全地方→彼らはヨハネから、自分たちの罪を告白してバプテスマを受けた。

C. マルコによる福音書 1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。(5) そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。

ユダヤの全地方の者たち+エルサレムの者たち→皆ヨルダンにて彼よりバプテスマを受けたり。

D. ルカによる福音書 7:29 (これを聞いた民衆は皆、また取税人たちも、ヨハネのバプテスマを受けて神の正しいことを認めた。(30) しかし、パリサイ人と律法学者たちとは彼からバプテスマを受けないで、自分たちに対する神のみこころを無にした。)

民衆は皆、また取税人たちも、バプテスマを受けた→しかし、パリサイ人と律法学者たちは、バプテスマを受けないで、神の御計画を拒んだ。

E. マタイによる福音書 21:32 というのは、ヨハネがあなたがたのところにきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかった。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとなっても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかった。

取税人と遊女たちは彼を信じた。

F. ヨハネによる福音書 4:1 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということ、パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、(2) (しかし、イエスみづからが、バプテスマをお授けになったのではなく、その弟子たちであった)

イエスはヨハネよりも多くの弟子を作り、バプテスマを授けられた。

(私自身の考え——この光の中で、あの盗賊のことを量ってみてほしい。御言葉は、彼がバプテスマを受けていなかったとは一度も言っていない。それは人々が勝手に思い込み、その思い込みの上に一つの教理をまるごと築き上げたものにすぎない。だが御言葉が実際に語っていることに耳を傾けてほしい。エルサレム、そしてユダヤ全土、ヨルダン周辺のすべての地方の人々が

出て行き、自分の罪を告白してバプテスマを受けた。一般の民衆も取税人たちもバプテスマを受けた。遊女たちも信じた。ただパリサイ人と律法学者たちだけが拒み、バプテスマを受けなかった。あの盗賊はパリサイ人ではなかった——彼は民衆の一人、犯罪者であり、まさにヨハネの悔い改めのバプテスマに群がって来た者たちと同じ種類の人間だった。そして十字架の上で、彼はまさにバプテスマが意味していたことを行った。すなわち自分の罪を告白したのだ——「われわれは自分の行いにふさわしい報いを受けているのだ」と。それに加えて、主ご自身の弟子たちが、ヨハネよりもさらに多くの人々に、三年以上にわたってその地全域でバプテスマを授けたという事実もある。だから真実は、この言い訳とは正反対である。御言葉は、バプテスマを受けなかった盗賊へと私たちを導くのではなく、ほぼ間違いなく他の者たちと共にバプテスマを受けていた盗賊へと導くのである。彼に寄りかかろうとする者たちは、すでに洗われていた一人の人間に寄りかかっていたのだ。)

G. ヘブル人への手紙 9:16 いったい、遺言には、遺言者の死の証明が必要である。(17) 遺言は死によってのみその効力を生じ、遺言者が生きている間は、効力がない。

遺言は人が死んだ後に効力を生ずるものであり、遺言者が生きている間はまったく効力がない。

(私個人の思い——たとえ最悪の場合を想定し、彼が全く洗礼を受けなかったとしても、それでもなお彼はあなたにとって規範とはならない。彼は新しい契約が発効する前に死んだのである。遺言はそれを作った者が生きている間は効力を持たない。そして主はまだ死んでおられなかった。だから、その強盗は、この新しい契約の門がまだ開かれていなかった古い時代のやり方で受け入れられたのである。そして彼は手と足を十字架に釘打たれ、降りて洗礼を受けることができなかった。神は人がなし得ることにおいて従順を求められる。死にゆく者がなし得なかったことは、なし得る生きている者にとって言い訳にはならない。あなたは十字架に釘打たれてはいない。あなたは従うことができるのだ。)

H. マタイによる福音書 7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。(27) 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである」。

聞いて行わない者 → 家を砂の上に建てた → そしてその倒れ方はひどかった。

(私の個人的な考え——それゆえ、その全ての言い訳は、御言葉が決して述べていない一つの仮定の上に成り立っている。それは御言葉が実際に与えている明白な証拠に対抗して立っている。それは砂の上に建てられた家であり、その倒壊は大きい。しかし、命令は岩の上に立ち、それは動いていない。悔い改めて、あなたがた一人一人がバプテスマを受けなさい。)

(これは私の個人的な考えです——しかし、これさえも敬虔な思いをもって聞いてください。すでにすべてを理解しているという安易な思い込みを持たないでください。多くの人がそう思い込み、そして間違っていました。そして、これらの言葉をあなたに伝える私たちも、すべてを知っていると主張するものではありません。私たちはなお学ぶ者であり、御言葉や、遣わされた者たちによって訂正されることをいとわない者です。しかし、使者たちが明確に語ったことを変える勇気は私たちにはありません。ですから、あなた自身でそれを調べてください。もし私たちが誤っているなら、御言葉が私たちを正してくれるでしょう。しかし、子羊の使徒たちの声よりも人間の声に耳を傾けて迷わされないよう気をつけてください。私たちはこの特定の問題を詳細に取り上げます。それは、聖書が表面上、正反対の方向を強く示しているように見えても、なお何かを信じ続けることができる一例として示すためです。私たちは御言葉を正しく分けなければなりません。それに付け加えることもできず、それから取り除くこともできません。)

彼を受け入れるための祈り

神よ、罪人なるわたしをあわれんでください。わたしは真理を聞き、心を刺され、あなたに尋ねます。わたしは何をすべきでしょうか。わたしは心をつくして、イエス・キリストがわたしのために死に、よみがえられたことを信じます。そして口をもって、イエス・キリストは主であると告白します。わたしは悔い改めます。心をつくして罪を離れ、あなたに立ち返ります。わたしは罪のゆるしを得るために、御名によってバプテスマを受け、キリストと共に葬られ、新しいいのちに歩みます。あなたの聖霊でわたしを満たしてください。キリストの御霊がなければ、わたしはあなたのものではないからです。わたしを守ってください。使徒たちの教えと、パンを裂くことと、祈りとを守り続けることができるように助けてください。ぶどうの木につながる枝のように、キリストにつながっていることができるように助けてください。最後まで耐え忍び、忠実であることができるように助けてください。主よ、わたしを救い、最後まで導いてください。アーメン。

練習クイズ

1. 人々はこれを聞いて心を刺され、言った——

- a) なぜためらうのか
- b) 人々よ、兄弟たちよ、私たちは何をすべきでしょうか。
- c) 彼は生きるだろうか

2. 悔い改めて、おののおイエス・キリストの名によりバプテスマを受けなさい。それは――

- a) 罪の赦し
- b) 正しい良心の応答
- c) 私たちの行いにふさわしい報い

3. 彼は震えながら来て言った、君たちよ、我いかにせば救われるべきか。彼らは言った、主イエスを信ぜよ。そして夜のその時刻に彼は――

- a) 贖いの日のために証印を押された
- b) 毎日宮に留まった
- c) 彼と彼の家族の者たちは、すぐにバプテスマを受けた

4. ナアマンはヨルダンに七度身を浸すと、その肉は元に戻り――

- a) 雪のように白く
- b) 小さな子供の肉のようになり、彼は清くなった
- c) 彼がダマスコの川で洗った後

5. おおよそ道を踏み越えて、キリストの教えに留まらぬ者は――

- a) 神は持っておられないのか
- b) 父と子との両方を持つ
- c) いのちの冠を受ける

6. もし人にキリストの御霊がないなら――

- a) 彼は贖いの日のために証印を押されている
- b) 彼はヨハネのバプテスマをもってバプテスマを受けるであろう
- c) 彼はキリストのものではない

7. 遺言は効力を有する――

- a) 遺言者が生きている間
- b) 人が死んだ後
- c) 御言葉があなたの近くに、あなたの口にあるとき

解答: 1-b • 2-a • 3-c • 4-b • 5-a • 6-c • 7-b

脇道 ― ガラテヤ人への手紙3章27節(「キリストにつくバプテスマ」)は、アブラハムの子孫へと開かれていく。「もしあなたがたがキリストのものであるなら、アブラハムの子孫であって、約束による世継ぎなのである」(ガラテヤ人への手紙3章29節)。

脇道 ― エペソ人への手紙1章14節(「御霊の保証」)は、購われたものの贖い ― 嗣業そのものと、手付けが全額支払われる日 ― へと開かれていく。

この答えは、一人の書き手の声だけに基づくものではありません。モーセ、ダビデ、ソロモン、イザヤ、エゼキエルが、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ、パウロ、ペテロ、ユダとともに立ち、ヘブル人への書もその中に並んでいます――旧約と新約を通じて十二人の証人が、皆同じことを語っているのです。

閉会

ヨハネの黙示録 2:10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちの者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死

に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。

死に至るまで忠実であれ。→われ汝に生命の冠を与えん。

ギリシャ語キーワード

“信じる” — **G4100 pisteuo** — 信じること、信頼すること、委ねること

主イエス・キリストを信じなさい、そうすればあなたは救われる——いかなる行動を取る前にも、心の内にある信仰。

“告白する” — **G3670 homologeo** — 同じことを言うこと、公に認めること

口によって告白することは救いに至る。

“悔い改める” — **G3340 metanoeo** — 思いを転じること;悔い改めること

それを始める転換 — 悲しみだけではなく、神に向かって新たにされた思いである。

“バプテスマを受ける” — **G907 baptizo** — 水で洗うこと。水に浸されて再び上げられること。

服従の最初の行為である、彼と共に葬られ、新しい命に歩むために復活させられること。

“洗われた” — **G3068 louo** — 沐浴する。全身を洗う

私たちをその血によって罪から洗い清めてくださった。

“赦免” — **G859 aphesis** — 放免すること、解き放つこと、赦すこと

イエス・キリストの名によって、罪の赦しのためにバプテスマを受ける——過去の罪が送り去られる。

“生まれる” — **G1080 gennao** — 生む、生まれる

人は水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

“恵み” — **G5485 charis** — 恵み。無償の賜物

あなたがたは恵みにより、信仰によって救われた — それは神の賜物である。

“切に励む” — **G4342 proskartereo** — 継続すること;待ち望むこと;絶えず自らをささげ続けること

初代教会が堅く守り続けた四つのこと。すなわち、使徒の教え、交わり、パンを裂くこと、そして祈りである。

“留まる” — **G3306 meno** — 留まる;とどまる;住む;継続する

枝はぶどうの木につながっている間だけ実を結ぶ。

“耐える” — **G5278 hupomeno** — 耐える;支える;忍ぶ

最後まで忠実を保つ者は救われる。

ヘブライ語キーワード

“信じた” — **H539 aman** — 信頼すること、堅くあること、忠実であること — 「アーメン」という言葉の語根
アブラハムは主を信じた。それによって、それが彼の義と認められた。

“きよい” — **H2891 taher** — 清くある。きよくある

洗って、清くなりなさい——ナアマンの肉は幼子の肉のように元に戻った。

“いやされた” — **H7495 rapha** — いやす。全くする

その打たれた傷によって、私たちはいやされる。

SOURCES & CREDITS

Scripture: Kougo (Colloquial) (Public Domain (1955 口語訳聖書 — Japan Bible Society's own copyright page confirms the copyright protection period has ended; see registry/JAPANESE_LEGAL_PATH.md. Moral/integrity rights are preserved under Japanese law, so the text is rendered verbatim only, never altered -- pipeline.VERBATIM_LANGS.)) — a redistributable edition, looked up exactly and never machine-translated.

Alternate chapter/verse numbering reconciled with STEP Bible TVTMS (CC BY 4.0).

Strong's numbering & original-language data: OpenScriptures Hebrew Bible (CC BY 4.0); STEP Bible.org — TAHOT/TAGNT/TBESH/TBESG (CC BY 4.0);

Robinson-Pierpont Byzantine Majority Text (Public Domain); Strong's dictionary, 1890 (Public Domain).

Typography: Google Noto fonts (SIL Open Font License 1.1).

© SEE MORE JESUS • wanttoseemore.com — shared under Creative Commons Attribution 4.0 (CC BY 4.0).